

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2014年(平成26年)2月16日 日曜日

無料

第21号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)2月16日 日曜日

会の名称決まる!

東北と道州制導入について関心のある仲間が仙台に集まり、定期的に会合してきた会があった。最初は、道州制導入で盛り上がったが、会を重ねるほどに、話題は東北の歴史・文化に重心が移っていった。少人数ということもあり、また特段の不都合もなかったため、会の名称も決まらずにきた。それぞれのメンバーが勝手に会の名を自分で仮決めして呼んでいた。そうした仮名称のまま、ほぼ一月に一度の開催を目指しつつ(最近はややなかなか思うように開催出来なかったが)、開催を続けてきた会の名称が、このほど正式に決まった。

『とにかく東北を語る会』である。『とにかく』というところがミソである。東北に関するいろいろな言いたいことがあるけれども、まずは、それぞれの参加者が、それぞれの思いを、分野を問わずに語ってみようではないかという思いを込めた。語り合ったその先にどんな展開があるかは考えず、『とにかく』やってみよう、ということである。あまり深く考えた訳ではないが、入口を狭めずに、広く構えて行こうというくらいの軽い気持ちである。

第一回「拡大会」開催

東北に関するいろいろな言いたいことがあるけれども、まずは、それぞれの参加者が、それぞれの思いを、分野を問わずに語ってみようではないかという思いを込めた。語り合ったその先にどんな展開があるかは考えず、『とにかく』やってみよう、ということである。あまり深く考えた訳ではないが、入口を狭めずに、広く構えて行こうというくらいの軽い気持ちである。

そのために、会合のテーマを絞らず、方向性もあえて決めず、参加者が語りたことを語る。そんな手広く構えた場、手堅な場があったら良いのではないかと、初期のメンバーで名称を決めさせてもらった。『とにかく東北を語る会』

東北に関するいろいろな言いたいことがあるけれども、まずは、それぞれの参加者が、それぞれの思いを、分野を問わずに語ってみようではないかという思いを込めた。語り合ったその先にどんな展開があるかは考えず、『とにかく』やってみよう、ということである。あまり深く考えた訳ではないが、入口を狭めずに、広く構えて行こうというくらいの軽い気持ちである。

東北に関するいろいろな言いたいことがあるけれども、まずは、それぞれの参加者が、それぞれの思いを、分野を問わずに語ってみようではないかという思いを込めた。語り合ったその先にどんな展開があるかは考えず、『とにかく』やってみよう、ということである。あまり深く考えた訳ではないが、入口を狭めずに、広く構えて行こうというくらいの軽い気持ちである。

東北に関するいろいろな言いたいことがあるけれども、まずは、それぞれの参加者が、それぞれの思いを、分野を問わずに語ってみようではないかという思いを込めた。語り合ったその先にどんな展開があるかは考えず、『とにかく』やってみよう、ということである。あまり深く考えた訳ではないが、入口を狭めずに、広く構えて行こうというくらいの軽い気持ちである。

東北に関するいろいろな言いたいことがあるけれども、まずは、それぞれの参加者が、それぞれの思いを、分野を問わずに語ってみようではないかという思いを込めた。語り合ったその先にどんな展開があるかは考えず、『とにかく』やってみよう、ということである。あまり深く考えた訳ではないが、入口を狭めずに、広く構えて行こうというくらいの軽い気持ちである。

『とにかく東北を語る会』
1/25・仙台で開催
真の東北復興のためには、復興論議のすそ野拡大は不可欠! 震災前に戻すことじゃない、インフラ復興だけが復興ではない!
まず“とにかく”東北に関する思いを皆でぶつけ、語り合おう! 誰でも参加可能なオープンな会に! 今後2ヶ月ごと開催予定!



の佐藤氏、音楽家の塚越氏、その生徒さんで紅一点の稲妻氏であった。多士済々、合計九名の会合となった。

話題はあちこちに飛び

前述のような「ゆるい会合」であるうえに、何と初参加メンバーのほとんどは、古参メンバーと初対面といういい加減さである。

自己紹介がなければどんな人かも分からないということ、簡単な自己紹介の後、テーマを決めないままのいきなりの「東北トーク」がスタートした。

いつものことであるが、話題は東北に関連する話であれば何でもありで、話題はあちこちに飛び、話し合われた話題をここに羅列するのも大変なほど。

また、いつもの三人だけでも、しゃべるのには、会話の隙間をこじ開けて会話に滑り込まないと、なかなかチャンスをつかめないが、今回は九人もいるので、それはそれは大変であった。少しでも遠慮していたらとても会話に参加できないありさまだった。

縦横無尽の話の展開

話題すべてを列挙するのはむずかしいが、どんな内容が出現したのか、その一端を紹介する。

今年の三月で大震災三年目を迎える、なかなか進まない復興、仙台市だけが復興先行、東北の魅力を東北人がよく知らない、他地域の人が魅力を発見してもらった方がよい、東北の歴史は埋没している、3・11で沿岸部遺構が出現して発掘作業が忙しい、発掘には膨大な予算が必要、宮城北部は大和朝廷と蝦夷勢力の境界、むかし東北は化外と言われた、縄文時代は大陸と陸続きだった、アテルイはもつと政治家で経済人だったのではないか、仙台で復興支援の屋台村を開こう、東京を経由せず東北文化を世界へ発信、仙台市の教育への疑問、東北の郷土芸能、東北三大祭以外の祭り、仙台すずめ踊り、仙台七夕、岩手の神楽、岩手の郷土芸能、未開拓の東北観光スポット、復興の民間プロジェクト募集、有備館の中鉢美術館、日本刀のルーツは東北、蔵手刀、童話と鉄文化、宮城の地酒、東北の企業、

東北の食材、魅力的なレストラン、東北の独立、仙台は牛たんだけじゃない、東北の神社には最初鳥居がなかった、東北の古墳保存靖国には戊辰犠牲者はいない、東北は昔からグローバル、北方交易、稲作開始は津軽、稲作定着は江戸時代海を渡った縄文人、蛇信仰、陰陽五行思想と道教、東北の歴史発掘で東北が変わる、縄文人ルーツ、安倍首相と安倍一族、遠野、東北の歴史改ざん、東北は日本の本國、高橋富雄氏、などなど。

そんなことで夕方五時から開始となった『とにかく東北を語る会』は、これまでの会合に、八時を過ぎてても終わらず、延々と果てしない会話が続いたのだった。

真の復興はインフラだけじゃない

今回の会合で特にその思いを強くしたのだが、3・11以降の復興に関する会合はあちこちにありますが、復興にあたっては、インフラ復興などの狭義の復興だけでなく、もっとと広範囲な「東北論議」が必要ではないか。この会合

の中から、具体的な活動が誕生するまで、いや誕生してからも、この「東北論議」は欠かせないと感じた。なぜなら、復興とは当然ながら道路や堤防等のインフラ復興だけではないし、土地かさ上げ工事、住宅建設だけではないのだから。そうしたことも大事なことは言うまでもないが、3・11直前の東北を取り戻すことが復興の最終目的ではない。戊辰戦争敗戦以来、東北が失ってしまったものも復興しなければならぬのではないか。

総合的な復興活動

当新聞の主張として、今後の復興は十数年、あるいはもっとかかると思われてきた。きつとそうなのだろう。外観だけの復興ではすまな

「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」その⑨

「宮城・涌谷町の製鉄・産金と物部氏」

あの物部氏と製鉄・産金と涌谷町の関係解明が一步前進
6世紀末、物部氏は宮城北部に勢力拡大、有力豪族に!
追戸古墳、長根貝塚も探索、白山祭取材、縄文人体験として黒曜石ヤジリ制作挑戦、縄文人の技術力の高さを実感



追戸横穴歴史公園看板



A地区1号墓



A地区3～9号墓群



未発掘の横穴墓



長根貝塚 説明版



竪穴式住居跡写真(拡大図)

古墳巡り延期が幸運と
度重なる偶然を呼ぶ

昨年十二月半ば、宮城県大崎市と涌谷町の古墳と貝塚を取材する予定だったが、猛吹雪のために延期せざるを得なかった。そのと

きは非常に残念で仕方なかった。しかしとても不思議なことだが、この延期が想像もしなかった数々の幸運を招き入れ、いくつもの「偶然」が重なる結果となった。

最近、古代の遺跡巡りや霊場、神社・仏閣巡りをしている、こうしたことがたびたび起きる。仲間うちでは、何かに「呼ばれる」という言葉でひとくくりにするのだが、今回も何かに

「呼ばれた」。この「何か」に導かれるように、そして事前にレールが用意されているのではないかと思うほど、「偶然」が複数重なり、そして、「最終目的」に連れて行かれることになる。

今回もまさにそうであった。思い返すだけで身震いするほどの経験であった。きつかけは岩船明神跡

最初の「偶然」は、涌谷町にある『岩船明神跡』であった。たまたま筆者の知人が、その岩船明神跡の写真をFACEBOOKに掲載し、筆者がたまたま見たことから始まる。しかし、所在場所が分からず、その知人に春になったら案内をお願いすることを約束した。

この物部氏が、この涌谷という地に、「天磐船」に通ずる船形の岩を据え、祀ったという言い伝えである。これが真実ならば、かつて涌谷町に、物部氏か、あるいはゆかりのものがないというところであり、そこから、涌谷のたたら製鉄や産金とも関係が出てくる。

追戸横穴古墳と物部氏 さらに「偶然」は続き、その日に訪ねようとしていた「追戸の横穴古墳」が、物部氏ゆかりの豪族の墓である可能性があるという岩船明神跡の説明に書いてあるではないか。もうドキドキが止まらない。

この貝塚に行くのは初めてだが、縄文時代早期から晩期に至る数千年間の堆積があり、東西三〇メートル、南北二〇〇メートルの環状の貝塚で、東北有数の大貝塚という。昭和四三年の発掘調査で



岩船明神跡



岩船明神跡の由來說明

説明では、昭和三〇年台まではそこに船形の岩があったようだが、いつのまにか消失した。その消失した岩に祀られていたとされるのが岩船明神だった。

岩船明神とは、饒速日命(にぎはやひのみこと)のことであり、大阪の磐船神社に祭られている。饒速日命は、天照大御神の詔により、「天磐船」に乗り「天孫降臨」されたが、物部氏はその子孫というつながりである。

この物部氏が、この涌谷という地に、「天磐船」に通ずる船形の岩を据え、祀ったという言い伝えである。これが真実ならば、かつて涌谷町に、物部氏か、あるいはゆかりのものがないというところであり、そこから、涌谷のたたら製鉄や産金とも関係が出てくる。

追戸横穴古墳と物部氏 さらに「偶然」は続き、その日に訪ねようとしていた「追戸の横穴古墳」が、物部氏ゆかりの豪族の墓である可能性があるという岩船明神跡の説明に書いてあるではないか。もうドキドキが止まらない。

この貝塚に行くのは初めてだが、縄文時代早期から晩期に至る数千年間の堆積があり、東西三〇メートル、南北二〇〇メートルの環状の貝塚で、東北有数の大貝塚という。昭和四三年の発掘調査で

長根貝塚碑



すっかり埋め戻されている



仙台市縄文の森広場



発掘されたヤジリ



不出来の現代のヤジリ 左下

この祭は千余年の伝統があり、宮城県指定の無形民俗文化財で、山岳信仰を基にし、そこに天台密教が結びつき、「作神さま」としてこの地方の信仰の中心をなしてきたという。

は、縄文中期の竪穴住居跡が二軒発見されたが、宮城県では最初の発見だとのことである。しかし、これだけの規模と古さのある遺跡にもかかわらず、現地には碑と説明板があるだけで、他には何もなく、遺跡はすでに埋め戻されていた。予算の問題もあるのかもしれないが、貴重な遺跡としての扱いとしてはとても満足いくものとは言えない。

ついで先日、富山県の小竹貝塚で縄文前期の人骨発見のニュースがあった。この長根貝塚は小竹貝塚よりもっと規模が大きい。この貝塚をさらに広範囲に発掘したら、重要な発見があるかもしれない。

縄文人体験として ヤジリ制作に没頭

筆者は最近、縄文へかなり傾倒している。しかし、まだまだである。実際に縄文人を体験して、近ごろと思っていた。その体験を通じ、縄文人の文化や文明を感嘆したいと考えていた。そのチャンスを探していたところ、仙台市長町にある「仙台市縄文の森広場」に、体験コーナーがあるのを発見した。

いろいろな体験コースから、筆者が選択したのは、黒曜石を用いたヤジリ制作だった。簡単だろうとタカをくくっていたが、とてもむずかしく、最初は石が割れ、二度目の挑戦でもなかなかヤジリの形にならない。結局、時間切れであきらめた。

後で見ると、とてもこのヤジリでは狩猟は無理である。獲物にヤジリが刺さって行きそうもない。失敗作である。筆者は現状では縄文人にはなれそうもない。縄文人の手先が器用なのか、現代人である筆者が不器用なのか、あるいは縄文

天台宗無夷山笠峯寺 白山堂「御弓神事」

昨年、スケジュールの都合で取材できなかった笠峯寺の白山堂。今回の東北訪問はこの取材を中心に組んだようなものだ。白山堂には祭開始前から大勢の観客とメディアが集結。この祭は千余年の伝統があり、宮城県指定の無形民俗文化財で、山岳信仰を基にし、そこに天台密教が結びつき、「作神さま」としてこの地方の信仰の中心をなしてきたという。

故郷涌谷のネタ尽きず

こうした歴史ある町に生まれた筆者であるが、これまでほとんど何も知らずにいた。故郷を離れて四〇年以上を経て、ようやくその歴史にじかに触れることができた。東北の放置された歴史と筆者の故郷への不義理がダブリ、後悔の念が押し寄せてくるのだ。



天台宗無夷山野の笠峯寺



大勢集まった観客



たくさんのお坊さんと かわいいお稚児さん



的を狙って弓をひく

三陸酒海鮮会開催
ご協力ありがとうございます
第5回 渋谷開催・・・12/21
第3回 日本橋開催・・・1/23



第3回 日本橋開催



第5回 渋谷開催

三陸の海産物を食べ、三陸のお酒を飲みつつ、三陸の復興に少しでも貢献しようという「三陸酒海鮮会」も大分会を重ねてきた。そして会の趣旨に賛同してご協力いただいている方々の輪も徐々に広がってきた。

三陸の海産物を食べ、三陸のお酒を飲みつつ、三陸の復興に少しでも貢献しようという「三陸酒海鮮会」も大分会を重ねてきた。そして会の趣旨に賛同してご協力いただいている方々の輪も徐々に広がってきた。

FACEBOOKでも参加者を募集しているのですが、参加ご希望の方はぜひお申し込みをお願いいたします。

カ月に一度の割合での開催で今回で五回目を数えた。前回の開催日は昨年未だ12/21であった。師走の忙しいなか、クリスマスも近いことから、なかなか参加者が集まらず、結局、五名という少人数の集まりとなった。

次回の開催は、渋谷開催が、2/22(土)の16:00開始、渋谷駅から徒歩3分の「焚火家」が会場である。日本橋開催は、3/13(木)の19:00開始、最寄駅は、地下鉄半蔵門線の水天宮前、そこから徒歩3分である。

民謡の宝庫・東北

世界の民謡と

日本の民謡

音楽の一ジャンルに「民謡」がある。元々「民謡」は英語の folk song の訳語として明治になってから作り出された言葉だ。その定義として、ウィキペディアによれば「特定の国や地域において、主に口承によって伝わってきた伝統的な歌唱曲。民族音楽の一種」となっている。

したがって民謡はもちろん、様々な国に存在する。日本でもよく親しまれている唱歌が、どこかの国の民謡であることも多い。例えば、「アニー・ローリー」、「蛍の光」、「仰げば尊し」はスコットランド民謡、「グリーン・スリープス」、「植生の宿」、「ロンドン橋」はイングランド民謡、「ロンドンデリーの歌」はアイルランド民謡、「アヴィニヨンの橋の上で」、「クラリネット

執筆者紹介

大友浩平

(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.ootomo>

トをこわしちゃった」はフランス民謡、「ローレライ」、「かつこう」、「野ばら」、「ちようちよ」、「こぎつね」、「ふんぶんぶん」、「山の音楽家」はドイツ民謡(と歌曲)、「おブレネリ」、「ホルデイリア」はスイス民謡、「おお牧場はみどり」はチェコ民謡、「森へ行きましよう」はポーランド民謡、「マイム・マイム」はイスラエル民謡、「一週間」はロシア民謡、といった具合である。

それにしても、と思うのだが、これら子供の頃から親しんでいる各国の民謡に比べて、日本の民謡は多くの人に比べて、親しまれていない。親しまれていないとは言えないのではないだろうか。

東北の民謡の状況

周知のように、もちろん日本にも民謡がある。民謡という言葉が考え出される前は、里謡、俚謡と呼ばれていたそうである。その呼び名の通り、人の住んでい

る場所に根差した歌であった。地域によって様々な民謡があり、しかもそれらは地域色豊かである。地域が違えば民謡も全く異なる。地域の多様性がそのまま民謡の多様性となって現れているかのようである。

一九八六〜八七年に文化庁が音頭を取って(ちなみに「音頭を取る」というのは民謡由来の言葉である)、各都道府県の教育委員会が実施した「全国民謡緊急調査」という調査があった。全国にどれだけの民謡が存在し、歌い継がれているのかを調査したのだが、その調査結果によれば、全国で現在確認される民謡は実に51198曲にも上るといふことである。そのうち青森には1743曲、岩手1513曲、宮城397曲、秋田1380曲、山形1837曲、福島376曲

あるとの結果なので、東北六県には合わせて7246曲の民謡がある。全国にある民謡の約14%が東北六県にあるわけである。日本の人口の約7%が住む東北に約14%の民謡があるわけであるから、東北は他地域に比べて民謡が多く存在していると言える。とりわけ、青森、岩手、秋田、山形四県の曲数は際立っている。ただ、この四県が全国で最も民謡の曲数が多い県というわけではない。例えば、隣の新潟では何と、3686曲の民謡が確認されている。

いずれにせよ、これだけ多くの民謡が地域に伝えられているにも関わらず、そこに住む我々はそのうちのどれくらい曲を知っているのかと考えると、いかに日本の民謡が私たちの日常から縁遠いものが窺えると思うのである。

日本の民謡の代表曲に占める東北の民謡の多さ

民謡の分類の仕方はいくつかあるのだが、大まかに分類すると、盆踊唄、祝唄、民俗芸能、労作唄、酒盛唄、童歌、祭唄、遊唄、古典民謡、新民謡などがある。これらのうち東北全体で比較的多いのは労作唄という、労働の際に歌われる歌である。労作歌は「民謡」として最も本質的なもので、多くは労働能率を高めるために作業の進行に対する一種の拍子歌として歌われるのが普通である(「世界大百科事典第2版」とある。東北人は「民謡を唄うことで農作業の厳しさを楽しく変えるようなバイタリティを持つ」と続けた)。「東北の豊かさに関する調査報告書」と見る見方もある。さらに地域毎に見てみると、青森には盆踊唄が多く、宮城、秋田、山形では酒盛唄が多い。

東北六県の民謡は全国の民謡の約14%と書いたが、これがCDなど媒体で商品として流通する際には、この比率は実は大大きく変わ

る。一例を挙げると、日本で最初に設立されたレコード会社である日本コロムビアが出した「日本民謡大全集」というBOXセットがある。CD14枚からなり、北海道から九州までの代表的な民謡168曲を網羅した企画物であるが、この14枚のCDのうち、6枚は東北の民謡である。すなわち、東北だけ別に民謡が収録されているのである。他には広大な地域を持つ北海道も1枚のCDだが、それ以外は「甲信越編」、「北陸・東海編」、「中国・四国編」など、ほぼ地域で1枚のCDである。したがって、このセットに収録された民謡中、東北の民謡が占める割合は実に約43%にもなる。

他のCDセットでも概ね同様の傾向で、つまり日本の民謡の代表曲を集めようとした時に、東北の民謡はそのなかかなりの割合を占めるのである。これは、東北の民謡が他の地域の民謡に比べて、より親しまれていて、かつ全国から代表曲を選抜した時に、割合から言えば三倍も多く収録されるくらい評価されているということの現れと言えるのではないだろうか。

しかし、残念なことは、肝心の東北に住む私たちがそうした、日本の民謡の中に占める東北の民謡の地位や質について、必ずしも多くを知っているわけではないということである。東北をより深く知るといふ過程

で、東北の民謡について知ることが欠かせないことであるように思うのである。

武田忠一郎の功績

もちろん、東北の民謡の持つ価値にいち早く気づき、その発掘に生涯をかけた先人もいた。「東北民謡の父」と呼ばれる武田忠一郎(ただちゆういちろう、一八九二〜一九七〇)である。

武田忠一郎は岩手県遠野市に生まれた。民謡研究者として、初めて東北の民謡三千曲余を採譜し、「東北民謡集」全六巻、「東北のわらべ唄」にまとめ、東北民謡を全国に紹介した。すなわち、ウィキペディアの言う「主に口承によって伝わってきた伝統的な歌唱曲」であった東北の民謡を、五線譜に記録した日本で最初の人なのである。その後、も仙台市に日本で初の民謡を学ぶ学校となる「東北民謡学校」を開校。その校長に就任するなど、東北の民謡に対する情熱は生涯冷め

ることはなかった。武田忠一郎の思いは、「民謡を楽譜に採譜記録することによって、いつでも誰にでも演奏できるようにしたい」ということだった。そうである。楽譜にすることに

うに全国各地や海外でも歌われるようにすることだった。そこには、東北の民謡に対する限りない愛着が垣間見える。

その意味で、武田忠一郎が民謡を採譜した目的は、単に「過去」を記録に留めておくということではなく、民謡を「現在」のものとして捉え、「将来」に活かすこと

にあったと言える。一九六五年、武田忠一郎の長女澄子がソ連を訪れた折、武田忠一郎がまとめた「東北民謡集」を大学に寄贈したが、ソ連側からは「何よりの宝だ」と喜ばれたそうである。楽譜になつていなければ、こうした交流もあり得なかつたわけである。「東北民謡物語」の「前がき」には、そうした武田忠一郎の民謡に対する思いが記されている。少々長いが引用する。

「田園で田園の人々の生活の中から自然に生まれ出た文化―それは一部の人々を楽しませるものでなく、一般の民衆に自由に解放された文化で、しかも民衆の生活から直接に生まれ出たもの―そういう文化を郷土文化と呼んだらよいでしょうか。そしてその中の芸能の部分に民謡や郷土舞踊があります。(中略)民謡や郷土舞踊は郷土に根を下して生きてきた芸能でありま

す。そこへ行く流行歌として作られたものは一種の商品ですから、いつの間にか中心からそれで行って消えてしまします。もつとも民謡だからといって永久不変のものではなく、われわれの生活の様式が変わって来るとやはりそれにつれて変わって来ます。(中略)このようにして実際の生活から離れて単なる娯楽として取り扱われるようになる

から離れて単なる娯楽として取り扱われるようになるにつれて変わって来ます。(中略)このようにして実際の生活から離れて単なる娯楽として取り扱われるようになるにつれて変わって来ます。(中略)このようにして実際の生活から離れて単なる娯楽として取り扱われるようになるにつれて変わって来ます。(中略)

「田園で田園の人々の生活の中から自然に生まれ出た文化―それは一部の人々を楽しませるものでなく、一般の民衆に自由に解放された文化で、しかも民衆の生活から直接に生まれ出たもの―そういう文化を郷土文化と呼んだらよいでしょうか。そしてその中の芸能の部分に民謡や郷土舞踊があります。(中略)民謡や郷土舞踊は郷土に根を下して生きてきた芸能でありま

民謡に込められた祖先の祈り

先ほど触れた、東北に労作唄が多いことを捉えて「農作業などの厳しさも楽しさに変えるようなバイタリティ」とする見方についてはもちろん、そのような面もあつたかもしれないが、より根源的には、「言霊(ことだま)」が関係している

ようである。古来より、日本人は言霊を信奉してきた。すなわち、口に出したことは良いことも悪いことも実現するということ考えでも実現するということ考えでも実現するということ考えでも実現する

ようである。古来より、日本人は言霊を信奉してきた。すなわち、口に出したことは良いことも悪いことも実現するということ考えでも実現するということ考えでも実現する

「東北民謡物語」の「前がき」には、そうした武田忠一郎の民謡に対する思いが記されている。少々長いが引用する。

「田園で田園の人々の生活の中から自然に生まれ出た文化―それは一部の人々を楽しませるものでなく、一般の民衆に自由に解放された文化で、しかも民衆の生活から直接に生まれ出たもの―そういう文化を郷土文化と呼んだらよいでしょうか。そしてその中の芸能の部分に民謡や郷土舞踊があります。(中略)民謡や郷土舞踊は郷土に根を下して生きてきた芸能でありま

「東北民謡物語」の「前がき」には、そうした武田忠一郎の民謡に対する思いが記されている。少々長いが引用する。

連載
むかしばなし

色あざむきで 会ませまつ

第九話 裏鬼門の 大天狗

「西に広瀬川さ落ちる断崖がある。その対岸ば見た事がおありか？」

藤原泰衡が神妙に語る。おそろく青葉山の事なのだ。次の言葉は驚くべきものだ。時々の世のものとも思えぬ都、また時には大海原、あるいは果てしない大砂丘。即ち見えるは幻ばかり。蛇行する大河は渡って戻つた者もおらず、故にかつて戦の要所とされた事もないのだ。長里は開いた口をようやう動かす。



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出立演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

「それは一体……」

「大天狗の住処である。」その途端、銃を手にした山浦が、狂ったような笑い声を上げた。「これは傑作だ事よ。天下の奥州藤原、その滅びの御館がごげな虚言妄想の徒であつたとは。奥羽の民も哀れだのう。青葉山に大天狗だど？世世言大概に致せよ。あの山さは後世、城が築かれる事になる。この原野にも、仙臺という奥州一の都が広がるのだぞ。」

「何と！この地に都が？」
武人らが仰天した。「んだじや。平泉など、比ではねえぞ。」
山浦は言い放つが、兵達は一様に「そんな訳はねえべ。」
「町なの成り立たねえろ。」と嘲笑うように言い合う。しかし、泰衡は静かに呟くのだった。「三郎が申した通りだな。」
長里が尋ねる。「三郎殿とは、もしや弟御・泉三郎忠衡公の事か？」
泰衡、一瞬驚いた様子だが、頷いて答える。「昔、弟はこの地で神隠しにあつたな。帰ってくる口走つたのだ。途轍もない都を見た、と。」

「何ですと……」

「仙臺か。その都、是非ともこの眼で見たいものだな。」
その時である。「火だ！火が出たぞ！」
陣内のどこかで、兵が叫んだ。四方から火が出てい

る、と。場ほどよめき、一斉に動いた。山浦が咄嗟に空に向けて撃つが、無駄だった。混乱に乗じて背中を強く突かれ、右手を払われ膝も折られて、山浦は忽ち組み敷かれてしまった。
泰衡はハッと気づく。腰掛に座つたままの少女を、一人の武者が抱き起こして連れ去ろうとしていたのだ。待て！と叫び追うと、武者は槍を向け、毅然として立った。よく見るとまだ少年だが、槍捌きは侮れない様子だ。続いて気づいた藤原の家臣らが包囲し、何人がが槍を持って追つた。泰衡が手を上げて制し、少年に尋ねた。「この娘の仲間か。」
少年武者、答える。「んだ。連れ戻しきたよ。」

武者達の野次が飛ぶが、泰衡は言った。「んだが。よかるう。不躰で申し訳なかつた。解放し差し上げねばなるめえ。」
棟梁が頭を下げたので、祝魚少年は勿論、包囲する兵どもも戸惑うのだった。



「肌も、髪も真っ白な娘が、真つ赤な瞳で睨み、言う。「そんなものではない。我らは元は一人である。今日は私、ヤエトであるが、昨日はイセセリで、明日は誰かわからない。」
さすがに、賢治もキョトンとした。どういう意味か。「私は色を失つたヤエト。これは口を失つたヤエト。それが耳を失つたヤエト。」
真つ白な娘が、側に立つ仲間を次々に指差しながら、言うのだった。
「よいのたま？」
「夢を見たのだ。我らに力をもたらす万能の器が授けられる夢をな。」
今純三が、貴女が主という訳か、と詰め寄るが、娘らの剣先が迫つたので宮澤賢治が制した。
「いえ、主などいないのでは。貴女方は全員で一個の生命体。互いの欠点を補い合い成立するコミュニケーションなので。」
一行、芭蕉もろとも驚愕した。
「我らは女だけで結束し、窟王の力を借りて猛き遊撃隊となつた。もう三百年以上昔の話よ。」
「窟王、とはどなたの事ですか。」
「窟に怖ろしき妖精の巣を持つていた、爺である。時に兵蜂を操つて戦に貢献した鬼術使いで、その巢に蓄えら

れた蜜は人を物の怪に変える力があつた。我らも、それで作られたのだ。」
話を聴く賢治は何やら鼻息が荒くなり、喜善の身体も小刻みに震えだしている。「しかし戦敗れ、窟は封印されて、我らは呪いをかけられたのだ。」
呪いとは一体……
「我らの肉体は日々、仲間内のいずれか一人だけの分身となる。それも、視力や知力、体力など何かしら欠け、力を削がれた分身ばかりにな。」
「何というヘンテコな呪いだ……」
大寺太能が呆れる。「しかも分身のうち、美と知力、そして神通の妖力を備えた分身はここにいない。裏鬼門の大天狗めに囚われているのだ。」
今度は何だ。てんぐ？
「裏鬼門とは、つまりこの地と言うと、南西の青葉山の事ですね。」
喜善が言うに、今純三が飛び上がった。「何ですつて！これから僕らも行く所ではないですか。」
「我らは何としても呪いを解かねばならぬ。それには唯一つ、我が悪路王の血筋の男と契りを結ぶ以外にはない。」
「悪路王ですと！」
賢治が興奮して叫んだ。「そ、その血筋とは、もしや水沢の銀行員、守隅全克君その人では？」
「さよう。瞳の発する光で、すぐわかつた。」
賢治は偉く感動している様子。ほおお、目から光がねえ、守隅君が悪路王さんの末裔とはねえ。喜善ともすごいすなあと、暢気に言い合う。
「し、しかし、守隅君にも選ぶ権利が……」
今純三が躊躇いがちに呟くと、真つ白な娘がきつぱりと言う。
「さよう、我らも同じである。残念ながら、今日ここにいる私、ヤエトには、その気はない。」
一行、ずっこける。「じゃあ、さううなよ……」
「しかし仲間の誰かが、あの若者と両想いとなれば良い訳。その時を、待つ。」
芭蕉が問う。「その、お仲間とは何人いらっしゃるのござる。」
「く僅かよ。」
気がつくと、周囲の女達の数が倍以上増えている。「三十一人が残るのみ。」
一行、哑然とするばかり。あまり発言しない一行の残る二人、八戸の船乗り・横野青桐と八幡平の料理人・柏盛がひそひそ言い合う。
「つまり、これから一ヶ月、毎日女が入れ替わっていくのを待つ訳か？気の長い話だな……」
「いや、もう明日の娘とい感じになるかも知れないじゃない。」
ヤエト、が言い放つ。「そんな訳で、ぬしらは死んでもらう。」

「全然納得できてませんが！」
「我が仲間のいずれかでも他の男と契りでもした途端、我らに入れ替わる事ができなくなり、呪いも永遠に解けなくなる。よつて今日、私の番であるうちに他の接触してきた男は全て抹殺しておくのだ。」
「何とも面倒くさい呪いだもんだにやあ。」
壇憲家老人がぼやいた。
芭蕉が進み出る。「一応、事情はわかり申したが……いかにせん、守隅君含め拙僧どもは、鎌倉数十万の軍勢が攻め寄せる明後日までにはここを去らねばなりません。」
「さうはさせぬ。」
いよいよ娘どもの凶刃の束、一行に迫る。「お待ち下さい。その、如意の珠だけでご勘弁頂くには参りませんか。」
賢治が麻袋の中身を取り出した次の瞬間、三十人の女達が一斉に怖ろしい悲鳴を上げたものだから、男達までひいひいと腰を抜かしそうになつた。しかし揃つて地に伏したのは娘達で、一様に目を手で覆つて呻き苦しみ、独り盲目の娘のみが呆然と立ち尽くしているのだった。
「な、何が起きたのです。」と純三。娘達はただ、光が、光が、目、目、と呻いている。賢治はしばし掌中の石を眺め、やがて深く頷き何やら合点した様子。

「蜂は人間には見えない、花が発する紫外線を捉えるのですが、どうやらこの石からもそのようなものが出てくるようですね。」
「いや、しかしこれは……紫外線、なんてもんじやなささうですすけども。」
と、純三。
「よ、よくもよくも……」
独り残つた盲目の娘が、懐剣を抜いて滅多やたらに振り回してくるも、芭蕉と柏が取り押さえる。賢治が諭すように言った。「大丈夫です。きつと呪いが解ければ皆さん回復なさるでしょう。ヤエトさん、私どもも裏鬼門へ行き、大天狗殿を倒し奉りましよう。」
「愚かな！ぬしらのような軟弱男どもに大天狗が倒せる訳がないわ。」
ふうむ、と芭蕉が思案する。
「次に向かうは大崎八幡宮の建つ事になる山。八幡様は武神。何らかの戦仕度ができるかも知れませぬ。」
「そんな事言つたつて、八幡さん、まだ建つてないじやないですか……」
純三の突つ込みを受け流しつつ、正午の空腹をようやく迎え撃つ一行であつた。

次回予告——
八幡様の山では戦仕度どころか賢治さんの苦手な、あの動物登場！？ところで昼メシって何を食うのか？

シリーズ 遠野の自然 「遠野の冬」 遠野 1000 景より



氷のワニ

前回からスタートしたシリーズ「遠野の冬」の第一回は「遠野の初冬」を取り上げた。

「初冬」といってもかなりの寒さである。東京などとはレベルが違う。東京では、どんなに寒いといっても、窓に氷の結晶が貼りつ

くことはない。かといって、最近の北海道で、氷点下30度近くを記録した地域と比べれば、それほど寒さではない。遠野では、寒い日でも、氷点下10度くらいの日がたまにある程度である。

そんななか、前号の発行後、いつも写真を拝借している遠野1000景さんから、「寒い冬」の写真がたくさん送られてきた。

「遠野の寒い冬」を反映した写真のうち、今回取り上げるのは、自然が造った氷のアートともいえる造形の数々である。

でも、まずその前に、地吹雪の画像。

読者の方々にぜひご覧に入りたいので、今回号と次回以降でそれらを紹介していこうと思う。

ただし、今度は逆に、あまりにも寒く凍えそうな情景ばかりとなって、そんなに寒いのであれば、冬の遠野に出かけるのをやめようという人が増えても困る。

遠野1000景さんからの伝言では、これらの画像は、標高800メートルの場所でのもので、遠野の平地とは異なることを付記されていた。よって、これが遠野の平地の冬と思われるも困る。

「遠野の寒い冬」を反映した写真のうち、今回取り上げるのは、自然が造った氷のアートともいえる造形の数々である。



地吹雪

また、写真は昼だから良いが、この光景が夜であったら、雪女でも出現するかもしれない。

最初の写真は、まるで「氷で出来たワニの頭部」である。それとも「恐竜の牙」

透明な「ワニの牙」、透明な「恐竜の牙」が、池の中に突如出現し、大きく開いた口からはみ出している。偶然の造形とはいえず、これほどワニや恐竜そっくりだとほんとに奇妙な感覚に襲われる。

自然が造形したアートとひと口に言うが、人間の手が加わってもこれほどの作

品はむずかしいであろう。いまにも動き出しそうであり、このまま湖を泳ぎはじめても不思議はない。そして、突然「獲物」にかぶりつくのだ。

どうしてこんな造形が出るのだろうか。不思議である。

どうしてこんな造形が出るのだろうか。不思議である。



鋭い牙のようなツララ



いったいどのように出来るのだろうか



氷のワニの群れ



巨大な牙と化したツララ



岩から垂れ下がるツララ

静岡県浜松市 極楽寺 から 袋井市 尊永寺へ

極楽寺住職夫妻は檀家さんに支援を呼びかけるため宮城被災地訪問
奥さまは多くの犠牲者を出した1959年の伊勢湾台風の体験者でもある

次の訪問地は遠州三山の一つ、名刹一袋井市 尊永寺
そこには3月中旬まで逗留予定

MONKフォーラム代表 長谷川稔氏寄稿

笑い仏さん

福島への行脚

第十二回

元日に笑い仏さんを拝む

MONKフォーラムメンバー



福島を目指す「笑い仏」は、静岡県を旅しています。まずは、一月二〇日まで逗留させて頂いた浜松市・極楽寺のお話から。

◇ 我々MONKフォーラムのメンバーで、元日に笑い仏さんを拝みに行きました。小川住職に聞けば、除夜の鐘を撞きに連れてくれた方に仏さんのことを紹介してくれたそうで、三〇〇人もの方々が拝んでくれたとのこと。

そして、一月二〇日が来しました。お引越しの日です。住職の奥様の優

しい目が温かく迎えてくれました。奥様は折り紙が得意で、この日も鮮やかな赤い椿を折って手渡してくれました。いよいよ別れの時。次の逗留地にお運びします。

◇ 奥様は住職と一緒に昨年八月、宮城県の被災地を訪れたそうです。「檀家さんに、東日本大震災の支援を呼びかけようと思ったのですけど、伝え聞いた話や写真だけでは駄目だと思っただんです。でも、現状を見ると、思った以上に復興にはまだほど遠いと感じました。」奥様は、気仙沼で地元作家が作られた絵本を

購入し檀家さんに紹介したそうです。

◇ そして、こんな話をしみてみようと語ってくれました。「私が学生だったときに、名古屋が伊勢湾台風の被害にあって、四七〇〇人の方が亡くなったのよ。福祉の学校に通ってたんだけど、いきなり実践になってしまったの。私たち女子はなかったけど、男子生徒は亡骸を運んだりね。そんな当時のことを、いま思い返すのよ。」

◇ 伊勢湾台風は、一九五九年に東海地方を直撃しました。今でこそ、台風はそこまで巨大な被害をもたらさない。それは先人らが、この避けがたい自然災害から教訓を得て、堤防やダムを築いたからに他なりません。

◇ 風光明媚な浜名湖を横目にしながら、極楽寺を後にして、今度は袋井市の尊永寺に向かいました。遠州三山の一つで、多くの参拝客が訪れる名刹です。仁王門

をくぐって、長い参道を歩いて行きます。しばらくすると石段が現れますが、これを登るのがまた一苦労。息も絶え絶えに登り切ると、そこに巨大な本堂が現れます。この本堂には観音さんがおられ、厄除けでご利益があります。

◇ 笑い仏さんを見守って頂いた奥様からは、「本当に寂しいわ。」と有難いお言葉がありました。そうしたら、作者の山本竜門さんが身代わり(?)のかわいい仏さんを送ってくれたのだそうです。笑い仏に代わって、お寺をより立ててくださいね。

◇ 尊永寺さんは、笑い仏が訪れてきた他のお寺と同じく、東日本大震災のチャリティーにも力を入れていきます。お堂には義援金を集める募金箱が置かれ、ま

をくぐって、長い参道を歩いて行きます。しばらくすると石段が現れますが、これを登るのがまた一苦労。息も絶え絶えに登り切ると、そこに巨大な本堂が現れます。この本堂には観音さんがおられ、厄除けでご利益があります。

◇ 笑い仏さんが逗留するのは、本堂の左にある大師堂です。弘法大師が鎮座されており、今回のためにお寺の開門に合わせて、扉を開けて頂いています。ここには、三月中旬まで置かせて頂く予定です。

◇ 尊永寺さんは、笑い仏が訪れてきた他のお寺と同じく、東日本大震災のチャリティーにも力を入れていきます。お堂には義援金を集める募金箱が置かれ、ま



引越された笑い仏さんの 代わりのかわいい仏さん

つた金額になると、地元のNPO団体を通じて被災地に送られているとのこと。◇ ところで、尊永寺の「寺グルメ」、ご存じでしょうか。その名も「厄除け団子」！徳川将軍に献上されたのが始まりという、とても由緒あるグルメなのです。参道の途中に、「だんご茶屋」なる休憩所があり、そこで楽しめます。お味は、あんこがたっぷりついているため甘ったるいのですが、とても上品な甘さ。二本で二〇〇円とお徳なので、是非ご賞味あれ！



尊永寺の厄除け団子

法多山尊永寺への道程は、JRだと袋井から遠鉄バスにて約25分。詳細は電話0538(43)3601までお願いします。

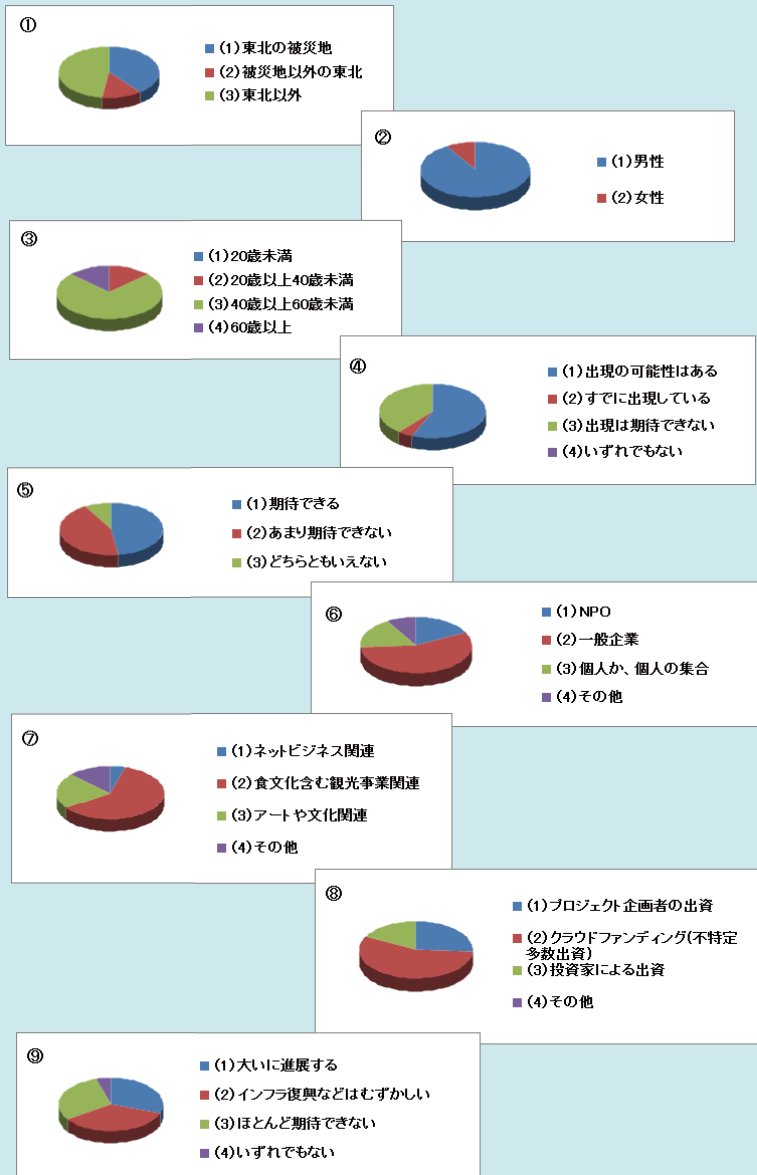
◇ 次の逗留地も決定しました！再び愛知県に戻り、奥三河の豊田市にある増福寺に向かいます。風鈴寺として知られることお寺は、夏に多くの風鈴が掲げられることで有名です。◇ それでは、本年も、笑い仏見守ってってくださいね。

(MONKフォーラム代表 長谷川稔)

第20号 ネットアンケート集計結果

民間復興プロジェクトによる東北復興は可能か?

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1)東北の被災地	9
	(2)被災地以外の東北	3
	(3)東北以外	11
②	性別	
	(1)男性	21
	(2)女性	2
③	年齢	
	(1)20歳未満	0
	(2)20歳以上40歳未満	3
	(3)40歳以上60歳未満	17
	(4)60歳以上	3
④	民間復興プロジェクト出現の可能性	
	(1)出現の可能性はある	13
	(2)すでに出現している	1
	(3)出現は期待できない	9
	(4)いずれでもない	0
⑤	民間復興プロジェクトの効果	
	(1)期待できる	11
	(2)あまり期待できない	10
	(3)どちらともいえない	2
⑥	民間復興プロジェクトの担い手	
	(1)NPO	4
	(2)一般企業	13
	(3)個人か、個人の集合	4
	(4)その他	2
⑦	民間復興プロジェクトのテーマ	
	(1)ネットビジネス関連	1
	(2)食文化含む観光事業関連	14
	(3)アートや文化関連	5
	(4)その他	3
⑧	民間復興プロジェクトの資金	
	(1)プロジェクト企画者への出資	6
	(2)クラウドファンディング(不特定多数出資)	13
	(3)投資家による出資	4
	(4)その他	0
⑨	民間復興プロジェクトで東北復興は進展するか?	
	(1)大いに進展する	7
	(2)インフラ復興などはむずかしい	8
	(3)ほとんど期待できない	7
	(4)いずれでもない	1



今回のテーマは「民間復興プロジェクトによる東北復興は可能か?」でした。行政主導の復興がなかなか進まないなかで、行政に頼らず、民間単独での復興の可能性があるのかどうかについてお聞きしました。回答者は23名。

「民間復興プロジェクト出現の可能性」は、「出現の可能性はある」が約56.5%、「出現は期待できない」が約39.1%。「民間復興プロジェクトの効果」は、「期待できる」が約47.8%、「あまり期待できない」が約43.5%と割れまじった。「民間復興プロジェクトの担い手」は、「一般企業」が最も多く、約56.6%。「NPO」と「個人か、個人の集合」は同数で、約17.4%。「民間復興プロジェクトのテーマ」は、「食文化含む観光事業関連」が圧倒的多数で、約60.9%。「アートや文化関連」が次点で約21.7%。「民間復興プロジェクトの資金」は、「クラウドファンディング」が約56.5%、「プロジェクト企画者への出資」が約26.1%、「投資家による出資」が約17.4%。「民間復興プロジェクトで東北復興は進展するか?」は、「インフラ復興などはむずかしい」が約34.8%、「大いに進展する」と「ほとんど期待できない」が同数で、約30.4%と三分しました。民間単独での復興は意見が割れている印象でした。

編集後記

今回の「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」での度重なる偶然にはほんとうにまいりました。還暦となった筆者の人生のなかで、こんなことは初めてです。この企画を開始して以来似たようなこともあり、また不思議な出会いもたくさんありました。今回の驚きはありませんでした。今回はもう、偶然とは言えないレベルです。

この体験により、宮城県涌谷町という筆者の故郷とは、切っても切れない縁で結ばれた感じがします。加えて、物部氏がとても身近な豪族に感じられるようになりまし。

そして、取材記事執筆中に、富山県の小竹貝塚での縄文人骨の大量発掘のニュースで、とどめを刺された感じがします。

最近、縄文人ルーツを調べていましたが、南方系という情報もあり、2万年前の日本地図を見ると、北方とはほぼ陸続きでしたので、どう考えるべきか迷っていましたが、まさか混在していたとは。

これですます縄文人ルーツにのめり込みそうです。このテーマにしばらく釘付けになりそうです。

埋もれた古代史発掘は刺激的な研究です。同好の士を探して、ともに研究を続け、大きな成果を出せたらと思っただ次第です。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由 (プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ ✕切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先 (郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タブロイド新聞【東北復興】宛 (メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています